

センターフェア2022での水槽展示企画

環境増養殖担当 朝田健斗

Key word; センターフェア, 藻類養殖, 食害, ウニ, 磯焼け, 農林水産物未利用部位

はじめに

徳島県立農林水産総合技術支援センターでは、毎年11月に当センターの研究成果や普及活動成果の紹介に加え、農業大学校生の地域住民との交流を目的とした「センターフェア&農大祭」を開催しています。しかし、2020年度からは、新型コロナウイルス感染症の発生に伴い施設を大々的に開放してイベントを開催することができなくなっていました。そのため、ここ2年は web 開催等に規模が縮小されていたのですが、今年度は、感染状況に注意しつつ規模を拡大して開催できる運びとなったため、本課も実に3年ぶりにフェアに参画してきました。コロナ前は例年タッチングプールを設置し好評をいただいておりますが、来場者同士が過度に接触する恐れがあったため、それに替わる企画として、現在の研究課題のうち「藻類養殖と食害」と「ブロッコリーウニ」をテーマに水槽展示を実施しました。



図1. 水産研究課ブースの様子

藻類養殖と食害

本県の沿岸では、ワカメ、クロノリ、スジアオノリといった藻類の養殖が盛んですが、近年ではそれらが魚によって食べられる「食害」による問題に悩まされています。これは、地球温暖化に伴う水温上昇により、12月頃まで水温が十分に下がらず、藻食性の魚が活発に動き回る期間が長期化していることが原因です。

今回は、食害魚としてメジナとアイゴ（どちらも職員が釣ってきました）を用意し、スジアオノリの養殖ロープと一緒に水槽に入れて展示するとともに、食害について記し

たパネルを添え，その実態について知ってもらおうと試みました。見学者からは，「食害という問題を初めて知った」「この魚たちは食べられるのか」といったご意見やご質問をいただき，想定よりも反響を得ることができました。



図2. 食害展示水槽（左：メジナ 右：アイゴ）

ブロッコリーウニ

地球温暖化に伴い，ウニの餌となる大型海藻が茂る「藻場」が減ってきています。そのため，ウニの身入りが悪くなって単価が落ち，獲られなかったウニが海藻を食べ尽くして磯焼けを引き起こすという悪循環が生じています。そこで，身入りの悪いウニを出荷可能なレベルまで肥育する方法として，農林水産物の未利用部位の中から餌料を選定することにより，磯焼け対策，未利用部位の処理費削減，漁家経営改善の一石三鳥となる養殖業の創出を目指しています。

今回は，実験に使用していたムラサキウニとブロッコリーの葉を水槽に入れ，説明パネルとともに皆様に見て頂きました。見学者からは，「与える餌によりどのような違いが出るのか」「ウニは高級食材だと思っていたので獲られないというのは驚きだ」といったご意見やご質問をいただきました。また，ウニの中にはその場でブロッコリーの葉を食べる個体もあり，子どもたちの興味を引いていました。



図3. ムラサキウニ展示水槽

おわりに

今回のセンターフェアのように、日頃の研究成果を水産分野にあまり関心の無い方々にまでお伝えできる機会というのはそうあるものではありません。来年度も、コロナの感染状況等には注意しつつ、皆様にできるだけ興味を持っていただけるような企画を考えていきたいと思っております。